

シートベルトセンサー

メディカルプロジェクト(静岡市葵区)



呼吸や脈拍を検知するシートベルトセンサー(パット型)

自動車のシートベルトに取り付けて、運転中のドライバーの呼吸や脈拍を検知するセンサーを開発した。意識喪失などの体調異常や居眠りなどを早期に検知し、事故防止につなげ

静岡
ものづくり
最前線

経済
しずおか

呼吸や脈拍から派生する微小な動きを空圧センサーでとらえる。カーナビゲーションなどつなぎ、分単位の呼吸や脈拍数を画面の波形に即時出力する。センサーの取り付け部はパット型など3タイプを用意した。

これまでが開発したベッド下に据える離床検知センサーや、浴槽内での健康状態の見守りセンサー技術を応用した。カメラなどで居眠りなどを検知する機器はあるが、ベルトに付帯したセンサーを介して覚知するタイプの製品はないという。走行中の路面振動といった影響除去など、検知機能の精度向上へ研究を重ねる。

運転手の異変 早期検知

ている。

実用化には、運転を強制的にストップする自動ブレーキや、運転手に警告するアラーム機能などの連動が必要になるため、完成車や部品メーカーに試験機を販売中。走行を管理するバスやタクシー会社などにも販路を広げたい考えだ。

森典昭社長は「自動車も医療用も人命を守るという発想の根幹は同じ。課題を克服し、輸送機器市場に提供したい」と話す。



企業情報

1982年設立。医療機器、医療用品の開発販売。静岡市葵区大鋸町1の12。従業員18人。